

Lesson 11 「天平文化と記紀」

～ Logical - 通史理解「日本史探究」疾風 Watabe 塾 ～

【天平文化】

①天平文化の性格

- 奈良時代に発達した、華やかな貴族文化を〔1〕とよぶ
- 唐文化の影響大…〔2〕を伝って西域・インドの文化も流入

【歴史書の編纂と文芸】

①歴史書と地誌

- 712年に〔3〕が完成
→天武天皇の命により〔4〕が読み習った『**帝紀**』『**旧辞**』の内容(口上)を〔5〕が筆録(文章化)
- 720年に〔6〕が完成
→〔7〕が総裁…中国の正史にならった漢文の**編年体**で執筆
→『**日本書紀**』以降に**編纂された正史**(6つ)の総称～〔8〕
- 713年に政府が諸国に命じて〔9〕を編纂
→**常陸国・出雲国・播磨国・豊後国・肥前国**が残存
…完本は〔10〕のみ

②文芸

- 8世紀後半までの〔11〕を約4,500首=〔12〕
→編者とされる**大伴家持**や**山部赤人**・**山上憶良**・**大伴旅人**らの歌を収録
→〔13〕が用いられ、**東歌**・**防人歌**などの民衆の歌も収録
- 751年に漢詩集である〔14〕が成立
→**吉備真備**・〔15〕・**石上宅嗣**ら、文人が活躍
<芸亭で知られる>

【奈良仏教】

①国家仏教の展開

- 聖武天皇…〔16〕**思想**のもと、諸国に〔17〕を建立
→仏教教理研究が進展し、〔18〕が形成される
【**三論宗**・**成実宗**・**法相宗**・**俱舎宗**・**華嚴宗**・**律宗**】
- 唐から渡来した〔19〕が戒律を伝え、〔20〕を創建

②民衆と仏教

- 〔21〕は政府に弾圧されながらも社会事業を展開し、民衆に布教
- 光明皇后…〔22〕を設置…貧民/弱者救済策

【美術と工芸】

①天平期の仏像

- 〔23〕：木の芯の上に粘土をかぶせてつくった像
→東大寺戒壇院**四天王像**、同法華堂日光・月光菩薩像、同執金剛神像など
- 〔24〕：粘土や木の原型に麻布をはり、漆で仕上げたもの
→東大寺法華堂**不空羼索観音像**、興福寺十大弟子・八部衆像、唐招提寺〔25〕、唐招提寺金堂盧遮那仏像など

②天平期の建築・絵画・工芸

- 建築：東大寺法華堂・**唐招提寺金堂**・唐招提寺講堂など
- 絵画：薬師寺〔26〕
東大寺正倉院の〔27〕など
- 工芸：称徳天皇がつくらせた〔28〕など

③正倉院の宝物

- 聖武天皇の死後、その遺品は光明皇后により〔29〕に寄進
→その宝物は〔30〕に保管され現在まで伝わる
- 宝物の多くは唐や新羅からの伝来品
→インド・ペルシア・東ローマにいたる文化的交流を示す

Q1 『古事記』『日本書紀』などの書物は何のために編纂されたのだろうか？

A ⇨

Q2 天平文化の国際性にはどのような背景があるのだろうか？

A ⇨